

2020年度 声楽「歌唱表現特別研究」
第9回 林 美智子 特任准教授

1. 日 時 : 2020年11月27日(金)17時00分～18時30分
2. 場 所 : K号館 603教室
3. 対象学生【必修】 : 大学院声楽研究室 1・2年生
大学「オペラ特別研究BⅡ」・「歌曲特別研究BⅡ」受講生

4. 講師紹介 : 林 美智子 特任准教授

他聴講不可

裏面参照

5. 講義概要 :

杉中 陽菜(大4)

P.Mascagni 作曲 「L'amico Fritz」 "Son pochi fiori"

辻本 令菜(大4)

P.Cimara 作曲 "Canto di primavera"

下村 悠輔(大4)

V.Bellini 作曲 「I Puritani」 "Ah, per sempre io ti perdei!"

林 美智子 (はやし みちこ) メゾソプラノ

Michiko HAYASHI mezzo soprano

埼玉県出身。東京音楽大学卒業。桐朋学園大学研究科、二期会オペラスタジオ、新国立劇場オペラ研修所第1期修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてミュンヘンへ留学。

アテネで開催された「国際ミトロプーロス声楽コンクール 2003」で最高位入賞。第5回ホテルオークラ音楽賞受賞。2002年、新国立劇場「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼルでオペラ・デビュー。以降、同年の二期会創立50周年記念「フィガロの結婚」ケルビーノ、2003年には二期会・ケルン市立歌劇場共同制作「ばらの騎士」オクタヴィアン、日生劇場ベルク「ルル」(3幕版/日本初演)、2004年二期会「ドン・ジョヴァンニ」ツェルリーナ、2005年佐渡裕指揮「ヘンゼルとグレーテル」ヘンゼル、2006年東京二期会「皇帝ティトの慈悲」セスト、2007年には新国立劇場「運命の力」プレツィオジッラ、同「フィガロの結婚」ケルビーノ、チョン・ミョンフン指揮の演奏会形式「イドメネオ」イダマンテ、日生劇場「カプレーティ家とモンテッキ家」ロメオ、2008年はびわ湖ホールと神奈川県民ホールの「ばらの騎士」オクタヴィアン、そして2009年には佐渡裕プロデュースオペラ「カルメン」タイトル・ロールで新たなカルメン像を創り絶賛を浴び、さらに2012年の日生劇場開場50周年・読売日響創立50周年・二期会創立60周年ライマン作曲「メデア」日本初演のクレオサ、2013年は2月に二期会「こうもり」オルロフスキー、7月に兵庫県立芸術文化センターでの佐渡裕指揮「セヴィリアの理髪師」ロジーナ、そして2015年には紀尾井ホールにて「オリンピーアデ」のアルジェーネ、日生劇場にて「ドン・ジョヴァンニ」エルヴィーラ役と初役に挑み、卓越した歌唱と抜群の存在感を示した。

チョン・ミョンフン、パーヴォ・ヤルヴィ等とベートーヴェン「第九」、マーラー「復活」・第4交響曲、ヘンデル「メサイア」、ヴェルディ「レクイエム」をはじめとする宗教曲、ブラームス「アルト・ラプソディ」、ベルク「初期の7つの歌」、繊細かつ表現豊かな歌唱が高い評価を得たシルヴァン・カンブルラン指揮読売日響とのショーソン「愛と海の詩」などで国内外の主要オーケストラとも多数共演。

リサイタル活動においても求心力あるプログラムや、自ら作詞し野平一郎氏に作曲を委嘱した「夜～La Nuit～」の演奏、R.シュトラウスやプーランクの歌曲など、常に意欲的な取り組みを行っている他、モーツァルト作曲「コジ・ファン・トゥッテ」や「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」を自らプロデュースするなど幅広く活動を行なっている。

2006年のファースト・アルバム「赤と黒」(Victor)に続き、2008年武満徹の「SONGS」全曲(+MI・YO・TA)を収めたCD「地球はマルイゼ～武満徹:SONGS～」(レコード芸術特選盤)をリリース。2012年2月には、パリの世紀末～20世紀初期までのエスプリに満ちた「ベル・エポック期」の歌曲を集めた「ベル・エクサントリック～林美智子ベル・エポック歌曲集～Belle Excentrique (DDCB-13021)」をリリース。

オフィシャル・ホームページ: <https://hayashimichiko.themedia.jp/>